



# 特殊伐採をはじめ技術力 そして人間力を高める仕事を

柏崎地域森林組合は旧柏崎市、旧西山町、旧高柳町の各旧市町村内を区域としていたそれぞれの森林組合が広域合併して平成17年に設立し、昨年、10周年を迎えた。現在の主な仕事は利用間伐だ。森林技術員は17名。利用間伐、保育造林、特殊伐採の3つの班に分かれて作業をしている。中でも特殊伐採技術の高さは周辺エリアから注目を集める。

取材に訪れた日の現場は柏崎市の松雲山荘の特殊伐採。公園内の伐採は近くに障害物がある上、根元から木を倒すとほかの木を傷つけてしまう恐れもあり、難易度の高い仕事だ。地上10メートル以上の木に登り、中切り（木の上部から少しずつ伐採していく）で切った木を下に落としていく作業でプロの技術力の素晴らしさを見せてくれた。

組合では平成27年度の利用間伐5団地43ヘクタールを実現。年々と成果を伸ばしている。その成果の根本を支えているのは人間力あふれる人材の育成だ。組合長いわく「作業の効率化を図るのは高性能林業機械だが、機械を操るのは人間」。今後は3名の森林施業プランナーの活躍にも期待している。

結れたマツの枝の伐採のため、チェーンソーを持って16メートルの高さの木に登る。森林技術員の植木洋一さん。高い木の上での作業は危険度が高く、緊張感も高まる



①16メートルの高さのマツの木からツリークライミング用のロープを使って下りてくる森林技術員の植木洋一さん ②特殊伐採チーム。左から桑原勝一さん、植木洋一さん、宮川和幸さん。「森林伐採はチームワークが何より大事です」とリーダーの植木さんは話す ③1本梯子に登って枝を切る作業を行う、宮川和幸さん

緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine vol.4

林業事業体レポート ▶

File  
02



## 柏崎地域森林組合

柏崎市



④伐採で倒れた木が公園内のほかの木を傷つける危険性があるので、中切りで木を下に落としていく ⑤木の上での作業は危険度が増す。万全な安全対策を施し、登る前には枝ぶりなども確認する ⑥報告書用に木を切る前後には必ず写真を撮影する

緑の担い手



植木洋一さん

Youichi Ueki

[年齢:37歳 林業経験:5年]

プロ意識を持って取り組む

自然が好きでこの仕事を始めました。特殊伐採を含む木伐採、現場管理を担当しています。シビアな現場が多く、足がついてない状態での危険な作業も多いので、緊張感で気持ちが悪くなることもあります(笑)。常に集中力が必要な仕事ですが、やればやるほど技術は高まるので極めていく面白さもあります。ほかの仕事はできないし、これが自分の仕事だと思ってプロ意識を持って臨んでいます。



岩内陽さん

Akira Iwauchi

[年齢:45歳 林業経験:16年]

地域の山を整備していきたい

アウトドアが好きなので林業を仕事にしました。体力的な厳しさもありますし、野外仕事なので暑い夏や寒い冬はキツイけれど、自然の中の爽快感や整備が終わったときの達成感が大きいんです。残念ながら林業が好きなのにやめてしまった人もいますが、継続することでどんどん魅力が増してくる仕事だと思います。山主さんの希望を汲み取りながらもつと地域の山を整備していきたいです。



①現場は旧西山町浜忠の7ヘクタールの森林。スギ林の間伐をメインに、グラブバケットで作業道作りも行われていた ②林業経験5年目の駒野和宏さんは林業の仕事を通して自然が好きになったという ③左から新潟県農林公社の相馬寛樹さん、森林作業員の駒野和宏さん、岩内陽さん、大橋俊さん ④伐採のために受け口を作る大橋俊さんは、この仕事に就いて9ヶ月。技術向上を目指して奮闘中

「大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち」

事業主コメント 柏崎地域森林組合 代表理事組合長 仲野寿平さん

木の仕事1本でやってきましたがなかなか厳しい時代になってきています。今は利用間伐が主ですが少しずつ地域材が求められるようになってきたので、停滞している主伐を進め、伐採後の再造林も考えていきたいですね。人材育成を大切に若者がモチベーションを上げられる環境を目指しています。



事業体Data



柏崎地域森林組合

住所/ 柏崎市三和町9-22 電話/ 0257-22-6212

設立/ 平成17年 資本金/ 1億1807万円

従業員数/ 21人(森林部門17人) 勤務時間/ 8:00~17:00

主な勤務地/ 柏崎市、刈羽村

主な従事業務内容/ 森林整備、特殊伐採、病虫害防除、販売ほか